



牧師 間瀬 善彦

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる」

(ヨハネ福音書 11章 25節)。

身近な人びとを失った寂しさは、何とも表現のしようもありません。わたしも父と3人の姉を次々に亡くすという悲しみを体験しました。神はこの嘆きにどう応えてくださるのでしょうか。

聖書はイエス・キリストの十字架の死からの復活を説いていますが、人がよみがえるなんて信じられないという人がいます。しかしその一方で、以前「千の風になって」という歌が大ヒットしたのは、亡くなった身近な人びとが地球上のいろいろな事物に生まれ変わって見守っている、という歌詞に慰めを感じたからではないかと思えます。身近な人びとがどんな形にせよ、死後も生きて自分のそばにいてほしいと願うのは当然のことかもしれません。しかしこれは、人間の一生は死で終わるという考え方に基づいています。死が人生の終着点であると考えれば、死には希望はありませんし、悲しみ、嘆きの対象にしかならないわけです。この嘆きは、どんな慰めの言葉も慰めにならないでしょう。

聖書は人の一生は死で終わるのではないと説いています。ヨハネ福音書 11章に次のような話があります。ベタニア村にマリアとマルタという姉妹がいました。マリアは高価な香油をイエスのためなら惜しみなく献げた人です。その兄弟ラザロが病気になったのです。2人の姉妹は、いままでのイエスとの親しい関係から、イエスならすぐにでも駆けつけてラザロの病気を癒してくれると思っていました。しかし、イエスが現われたのはラザロが既に死んで、墓に葬られた4日目のでありまして。イエスは決してマリアとマルタを無視したわけではありません。2人の悲しみを十分に理解しておられました。イエスにはお考えがあったのです。

人は自分の命をどうすることもできません。イエスは「わたしは復活であり、命である」と言われる方です。イエスは墓の前で叫ばれました。「ラザロ、出て来なさい」。イエスはラザロを生き返らせられました。イエス・キリストの復活を信じるなら、人の死は悲しみではありますが、嘆きに終わらないのです。

誕生日を祝う

経堂教会が発行している「教会短信」21号に書かせていただきましたが、現在でも数人での読書会は続いています。

現在はヘンリ・ナーウェン著の「いま、ここに生きる」という本を読んでいます。そして、考えさせられたこと、学んだことなどの意見を述べ合っています。

この「いまここに生きる」という本のなかで、著者ヘンリ・ナーウェンは“誕生日を祝う”ことをこのように述べています。

誕生日を祝うことは、「あなたがいてくれてありがとう」とある人に言うことだからです。誕生日を祝うことは、命そのものを賞賛し、また喜ぶことです。「あなたが生まれたことを感謝します。そして私たちと一緒にいてくれてありがとう」と言うのです。

私は幼いころから、思春期までは両親や他者から誕生日にプレゼントをもらって喜んでいました。アツと言う間に30才、40才、50才となり、60才近くになると、“年を取りたくないわ”“また1つ年を取ってしまう”“自分の年をごまかそうかしら”など、喜ぶどころかボヤいていました。

そのような私が、この本に出会って大いに反省しました。今は誕生日を覚え、祝うことによって、命の恵みの素晴らしさを改めて思うことができます。だから私は、年老いても自分の誕生日を覚えて、生まれて来たことに感謝するでしょう。そして他者の誕生日も自分以上に心から祝うことができます。

最後に旧約聖書、出エジプト記20：12十戒の中に

「あなたの父と母を敬いなさい」とあります。

父と母がいなかったら、私はこの世に誕生してくることが出来なかったのです。これからは誕生日を迎える再にも、父と母の存在を思い出し、そして私を今まで育ててくれた多くの方たちの存在を思い出して感謝いたします。

K. M

自分で復讐してはいけません。 神の怒りに任せなさい。

(ローマ人への手紙 12章 19節)。

不当な扱いを受けたとき、怒りがふつふつとわきあがり、相手にリベンジしたくなります。しかし聖書は、神が下す怒り（制裁）に任せなさいと言います。そのうえ、敵が飢えていたら食べさせ、善を持って悪に勝てとも。正直、ハードルの高い話ですが、それでも、クリスチャンがこのことばに従おうとするのは、キリスト自身が十字架にかかり、このことばを実践して見せたからです。激しい怒りは、正当な理由があっても、人の判断を誤らせがち。怒りに身を任せてしまって、あとで後悔するなら、神に任せてみてはいかがでしょうか。

「聖書の品格」（いのちのことば社）より引用

教会バザー

4月26日（日）

12時30分～14時30分

春のバザーを行います。

皆さまのおいでをお待ちいたしております。

バプテスト教会は売上を、インド、インドネシア、タイ、ルワンダの恵まれない、親のいない子供たちのために施設を作って育てています。一番大切にしているのは、立派な施設を作るのではなく、一人の子供が立派に自立することに力を入れています。

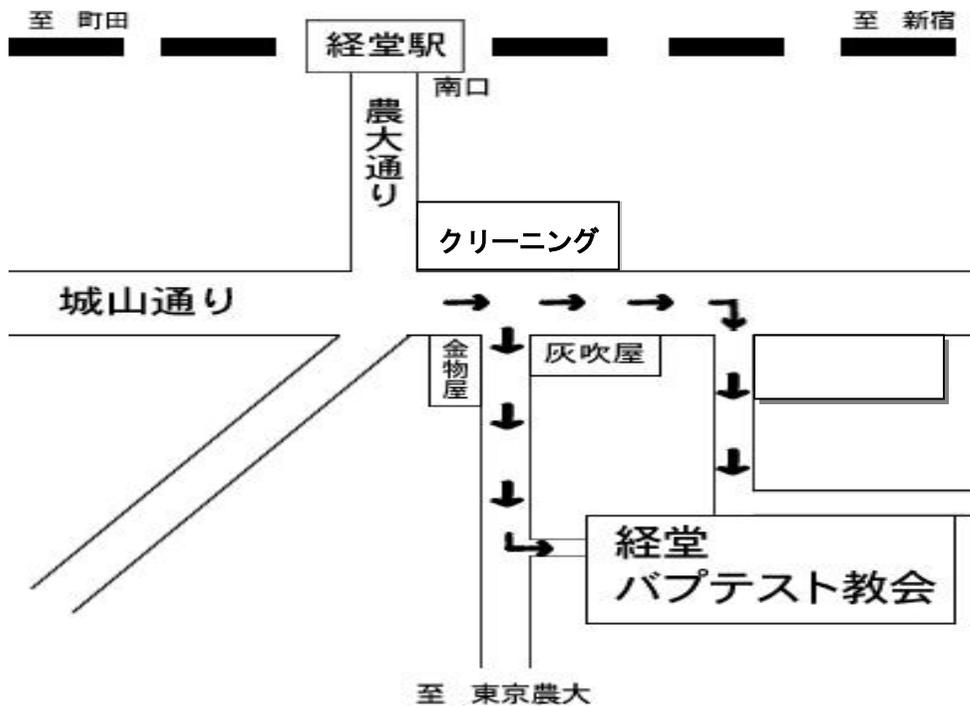
おいしいケーキ&コーヒー、紅茶のセットもあります。

教会の喫茶室でゆっくり召上ることもできます。お待ちしております。



日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～2時30分
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間渕 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。